

とうとう「聖マルティンの家」にもコロナが本格的に猛威を振るい、なんと昭子さんは腸チフスと二重感染し、一時重症になりました。

エルピス会創立以来最大の危機を迎え、一時は騒然となりましたが、皆様のご支援のおかげさまでなんとか乗り越えた模様です。

今回はその模様を、臨時号ということで皆様へお伝えしたいと思います。

◆2021年6月9日 着信 (昭子さんよりメール)

コロナの影響は CAPEDIS (社会福祉施設) を大変な状況に追いやっています。私も1週間ベッドにくぎ付け。

突然咳に見舞われ発熱3日目からは毎日嘔吐と下痢にさいなまれています。私はすぐ畑に退いて隔離状態を続けましたが、CAPEDIS ではローナルが発熱コロナ陽性その後モジョシュエ発熱。

それだけでなくパオラちゃんが今一番危険な状態に陥っています。肺の機能低下。検査の結果肺がほとんど白く集中治療室で治療しなければならない状態。

ただこの病院も空きがなく、この状態のまま神様に任せるしか方法はありません。私たちの知っている人たちもどんどんなくなっています。

お祈りください。

◆2021年6月11日ころから20日ころにかけて

その後、昭子さんは落ち着いたと聞いて安堵していましたが・・・

今、ボリビアから修道院は撤退しています。

ペルーにいらっしゃるシスターが、ご用事でボリビアを訪ねた際、昭子が重症だと耳にし、ペルーの修道院からゆかりのある日本の修道院へ情報が回り、そこからエルピス会へと情報が届きました。

エルピス会からも電話をかけてみたり、メールをしてみたりしましたが、昭子さん本人には繋がらず、現地の方とはスペイン語が理解できずで、現状がわからない状態が続きました。

その後、スペイン語のできるご支援者様に、ローナル氏やマルガリータさんに繋いで近況を聞いてもらいました。

情報が錯綜し、なかなか正確な情報が伝わりませんでした。後に、昭子さんは、腸チフスにもかかっていたことがわかりました。また、レントゲンを撮ったら肺も真っ白で、

今すぐにでも入院して酸素吸引が必要なところでしたが、昨今のコロナ禍のことです。どこも満床で、入院出来ませんでした。

前々から肺炎を起こしていたパオラちゃんとともに、「聖マルティンの家」にて療養し、回復を祈っていました。

◆2021年7月15日着信（昭子さんからメール）

CAPEDIS（社会福祉施設）を支援してくださる皆様

沢山の方々に心配をかけ多くの祈りのおかげでみんな危機を乗り越えることができました。

特にパオラちゃん（ダウン症）は、医者に3、4日命が持つか心配だとまで言われ、2日かかるほど遠いところからお兄さんまで駆けつけました。

でもたくさんの方々の祈りが神様に届いて急に回復しました。真っ白だった肺が突然きれいになっていたのでお医者さんもこれは奇跡としか言いようがないと、レントゲン撮影を前のと見比べながら首をかしげていました。

職員を含め他の皆3週間で回復しました。もちろん私もです。ただ私は腸チフスまで一緒に攻めてきたので薬がたくさんで、その副作用に今でも苦しまされています。

ワクチン接種は、私以外皆1回ないし2回の接種を済ませています。子供たちは2回目接種を7月末から8月頃にしてもらう予定です。近くの診療所の先生が家に来てしてくれることになっています。

ワクチンは今出回っているのは中華性ワクチンで、私個人の考えですが、中華性ワクチンの効力は信じませんし、むしろ害のほうが心配なので私は今でもするつもりもありませんが、うちの子供たちは、診療所と常に連絡があり彼らの指示に従うしかないので彼らが決めた日にちにさせました。また職員は各自の決定に任せております。ワクチン接種後の職員たちが数日体の不調を訴えていましたが。

ワクチンは、初めに中国製そのあとにソ連、そしてこれからアメリカのジョンソンのワクチンがつく予定です。

私たちの住むコチャバンバはようやく規制が少し緩められました。他の県ではまだまだ死者が増えているようです。まだ油断はできません。

本当に皆様のおかげで私たちは守られています。心から感謝いたします。

ただ日本も心配ですね。コロナだけでなく自然災害の悲しいニュースに心を痛め特に熱海の土石流のニュースは私たちが2度経験した土石流と重ね合わせて思い出していました。心配すればきりがありませんが、神様に委ねて生きましょう。

野原